



GINOWAN ☆ STAR

エプロン通信員 備瀬真理

朝夕が涼しくなり、人恋しくなるこの季節、皆様どうお過ごしですか。敏感か鈍感か分からない私の皮膚も、秋を感じつつしている今日この頃、猛暑、酷暑の疲れが出てきている方もいらつしやるのではないのでしょうか。

さて今回は、そんな暑さもものともせず春夏甲子園連覇を果たした興南高校の島袋君と慶田城君が宜野湾で生まれたと聞き、この夏、私が見つけた『宜野湾の星☆』について報告したいと思います。

毎年、はごろも祭りの前に行われる納涼祭り。沖縄の文化、「エイサー」は息子達に根つき、今年は本格的に衣装を身にまとい、見よう見まねで初めて着付けをし、勇壮ならぬ琉装、母親の私は息子達の一つ一つの動きを見ながら相変わらずジワーッと涙を流し、じっとしているのがやっとなりました。その涙が乾くか乾かないか、青年会のエイサーが始まると同時に、おとつとつと、と私の耳元でバチが動く音がしました。「危ないから人の近くでやらないで。」と背後からはお母さんらしき人の声。そう、そして私の目

の前に現れたのがセナくん、2才でした。彼は小さな体に大きな太鼓を首から提げ、(彼曰く、パーランクーは迫力不足だという)バチを振り上げ、音につられるかのように踊って来たのです。私はその姿に魅せられ、圧倒され、口をポカンと開けたまま「ホーッ。」と言いながらずっと見ていました。お母さんによると、青年会にいる彼の叔父さんに連れられて、練習していた、との事。汗ビッシュヨリになり、一心不乱に踊ったセナくん、まだまだ余裕な感じでした。



カレンダーをめくってみると、一年のなかで秋は意外にも祝日の多い季節であることがわかります。しかし、戦後間もない頃の沖縄の祝日は、現在のものとはやや異なっていました。

宜野湾市文化課が所蔵する行政文書「祝祭日の実施に就いて」(1951年8月3日付)によると、11月の祝日として、おなじみの3日

「文化の日」、23日「勤労感謝の日」のほか、当時の11月4日には「群島政府創立記念日」なる祝日が設けられていたことがわかります。ここで注目したいのは、原資料に記述される「民主主義国民としての自治能力の体得」という記念日の趣旨についてです。

米軍占領下の当時の沖縄では、自らの知事を自らの投票によって選ぶことが出来ませんでした。沖縄知事がもつぱら米軍政府から任命されるにとどまるなか、知事の公選は民意の反映をめぐる、当時最大の政治的争点でした。このような状況にあって実現した群島知事選挙では、琉球農林省総裁の平良辰雄が沖縄群

幻の祝日

島知事に当選し、1950年11月4日、知事の就任式が実施されるに至りました。

琉球政府の発足にともない、群島政府自体は約一年半という短命に終わりましたが、「群島政府創立記念日」に託された民主主義と自治の精神は、現在の沖縄社会における礎として大事にしたいものです。

(文責 清水史彦)

月日	祝祭日	説明
11月4日	群島政府創立記念日	群島政府の創立を記念する日
11月11日	文化の日	文化の発展を促進し、国民の文化生活を豊かにすることを目的とする日
11月23日	勤労感謝の日	労働者に対する感謝の意を表す日

▲1951年8月3日付 「祝祭日の実施に就いて」(原資料より一部掲載)

「宜野湾市史」へのお問い合わせ
教育委員会 文化課 ☎8993-4430